

茨城県笠間市立岩間第一小学校（学校長 中山 清）

実施日	平成19年10月23日（火）	時 間	午後1時～午後4時
実施場所	体育館	対象/人数	5・6年生 130名
担当教諭	大関 律子	ファシリテーター	山形 正子
講師	新垣 マリア（ペルー） タベッシュクー・ベヘルズ（イラン） シェダ・ナウシン・パルニーニ（バングラデシュ・留学生） オレリアン・パロン（フランス・県国際交流員）		

活動内容

ペルー・イラン・バングラデシュ・フランスのあいさつや暮らしの様子のお話、じゃんけんなどの遊び、民族衣装の紹介・楽器や踊りの紹介・体験

児童の感想

- ・ぼくは、玄関でパロン先生のお出迎えをしました。先生は、電車に乗りおくれたと言って駅から学校まで歩いてきたと日本語で話していました。とても日本語が上手なのでびっくりしました。先生に英語であいさつしてみたら、ちゃんと通じました。握手もしてくれました。とてもうれしかったです。
- ・パロン先生のノリノリのギター演奏がとても楽しかったです。演奏の最後に、先生のカツラがずるって落ちたのがおかしくておかしくて、おなかが痛くなりました。
- ・パルニーニ先生にバングラデシュの衣装を着せてもらいました。6メートルの長い布がドレスのようにすてきになりました。
- ・マリア先生に教えてもらったおはじきみたいな遊びは、簡単そうに見えたけどやってみたらすごく難しかったです。
- ・ベヘルズ先生に教えてもらったきまりが厳しいのでびっくりしました。お酒はだめだし、ぶた肉もだめなんてみんなよくがまんできるなあと思いました。
- ・英語を話せるようになって、外国に行ってみたいと思いました。

先生の感想

・本校では、文科省から国際理解教育の指定を受けており、とくに5・6年生の英語活動における内容と展開について研究を進めている。英語にもっと関心をもってほしいという願いからのワールドキャラバンの実施であった。児童の中には英語で話しかけようとする者もあり、通じたときの喜びを素直に表現していたのが印象的であった。短い時間の交流であったが、遠くの国の様子を知ることによってその国やそこに住む人々を身近に感じられたようであった。

・講師の先生は、休憩なしの厳しい日程にもかかわらず、いやな顔一つせずに児童にいろいろなことを教えてくださった。また、コーディネーターの山形先生にもたくさんのパネルや小物を持参していただき、児童が日頃なかなか目にすることのない貴重な資料に直接触れることができたこともとても有意義であった。

成果と課題

- ・毎週実施されている英語の授業では、高学年の担任から以前よりも意欲的にアクティビティに取り組むようになったという報告が挙がっている。
- ・5年の総合的な学習の時間では国際理解をテーマに学習をすすめているが、ワールドキャラバンで学んだことをもっと掘り下げて調べ、ワールドキャラバンで聞いていない友だちにわかりやすく伝えることを実施した。児童は、わかりやすく伝えることや自分の気持ちや考えを表現する難しさや伝わったときの喜びを味わうことができた。
- ・外国人講師とたくさんの児童がふれあえるように考えた日程であったが、35分では短すぎたようである。講師の方は「もっと話したい。」児童も「もっと話したい、聞きたい。」会場には、そんな気持ちが充満していた。
- ・一方的に各国の情報をいただくだけだったので、もう少しこちらからも情報（伝統芸能や昔話の紹介など）を与えて、お互いが楽しめるような時間を設定すると交流がもっと深まるのではないかと感じた。次回このような機会がもてればぜひ実施したい。

